

第7回 淀川左岸線（2期）事業に関する技術検討委員会 委員からの主な意見

■ 完成時における一体構造物のモニタリングに関する検討について

- ・ モニタリングに関しては、想定外の大きな変状等への対応に加え、将来的には事故等の事前予測などへの活用も視野に入れながら、モニタリング観測データは確実に蓄積していくこと。
- ・ 堤防と道路ボックスの境界に関する関連項目には、函内の漏水の有無および道路ボックス構造継目の異常も関連するため、モニタリング項目の追加を検討すること。

■ 技術検討報告書（案）について

- ・ 解析で用いた土質定数等に対して、現地地盤の局所的な土質条件の違い等により、解析結果が危険側の予測となる可能性も考えられるので、事業実施段階の追加土質調査結果により、土質定数等の適用性について確認すること。
- ・ 報告書の構成は、第3章で一体構造物としての課題のみではなく、課題に対する検討方針を記載すること。
- ・ 圧密沈下解析の検討手法については、これまでの委員会での内容や土質調査結果の精査を踏まえ、土質定数や解析手法を再整理していることを概要版及び報告書本編に記載すること。
- ・ 委員会での検討時点では、巨大地震時に発生することが計算されている剥離に関しては、剥離量の議論ではなく、剥離箇所の議論とするため、交通振動に関する検討においても、同様の整理をすること。

■ その他

- ・ 今回の意見を踏まえ、技術検討書（案）及び概要版の修正を行った後、各委員に確認する。

以 上